北海道公立大学法人札幌医科大学　保健医療学部

保健医療学部通信

第１３号
令和元年１０月発行

ごあいさつ

保健医療学部長　大日向　輝美

北海道に甚大な被害をもたらした胆振東部地震より１年余り。震源地を中心とする被災地の復興・復旧は、様々な困難や障害により、必ずしも順調に進んでいない状況が伝えられています。道民の防災・減災意識は１年で低下してきているとの報道もあり、自分の事として危機感を抱き続けることの難しさがうかがわれます。自身を振り返ってみましても、「備え」に対する意識は薄らいでいるように感じられ、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」という格言が身に沁みるところです。

一方、大学では胆振東部地震を機に、防災・減災活動の重要性を再認識し、この１年、「災害は発生するもの」との前提に立った取り組みが行われてきました。学生用危機管理マニュアルを作成し、学年ごとに説明会を開催して災害発生時に求められる行動を周知。発災時の行動を記載したアクションカードを学生証とともに常時携帯するように指導しています。教員に対しては教員用危機管理マニュアルにおいて、学生の安全確保を第１とする役割を明確化し、授業時間内外の行動を具体的に示しました。

こちらも絵に描いた餅にならないよう、教員研修で取り上げるなどの対応を行っています。課題の1つであった安否確認システムも整備され、今後は年2回の予定で安否確認トレーニングを実施します。毎年1回1学年を対象に行われている避難訓練も見直しがなされ、以前より現実感のある方法に変更されました。災害備蓄や非常用電源など大学機能の維持管理に係わる課題につきましても、着々と対策が進められているところです。

これからの課題は、この1年の災害対策が形ばかりで終わるのではなく、実のあるものにできるかどうかだと思われます。学生、教職員を含む大学関係者の防災意識の維持・向上をはかるには、大学が災害に対してどのように向き合い、役割・責任を果たしていこうとしているのか、大学の姿勢が問われています。

体調を崩しやすいこの季節、保護者の皆様におかれましては、ご自愛くださいますようお願いいたします。今後とも本学部の教育研究活動にご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【令和元年度 前期学事 実施報告】（1～4学年）

（４学年共通）

４月　５日	入学式
４月　８日 ～ ４月１０日	「保健医療総論１～4」
４月１１日 ～	前期講義開始
６月　６日 ～ ６月９日	大学祭
６月２５日	大学記念日

（１・2年生）

８月　６日～９月　１日	夏季休業
９月　２日～９月２０日	前期定期試験

（3年生）

８月　６日 ～９月　１日	夏季休業
９月　２日 ～９月１３日	前期定期試験（看護、作業）
９月　２日 ～９月２０日	前期定期試験（理学）
９月１７日 ～	臨地実習（看護）

（4年生）

４月１５日～１０月４日	臨床実習（作業）
５月１３日～８月　９日	〃　（理学）
７月２２日～８月　２日	前期定期試験（看護）
８月　５日～８月２５日	夏季休業（看護）
８月１２日～９月１５日	〃　（理学）
７月２９日～８月１１日	〃　（作業）
８月２６日～	臨地実習（看護）

札幌医科大学専攻科紹介

助産学専攻科　正岡　経子　教授

前列中央　正岡教授

募集概要

修業年限	1年
入学定員	20名
選抜区分	一般選抜, 地域社会人推薦入試
選抜方法	筆記試験, 面接
取得資格	助産師国家試験受験資格 受胎調節実地指導員申請資格 新生児蘇生法（NCPR）専門コース修了認定資格

札幌医科大学助産学専攻科は、２０１２年に開設され今年で８年目となり、これまで１３２名の修了生を輩出してきました。入学定員は２０名で、大学専攻科としては養成人数が多いことが特徴の１つです。助産師を目指す上で本学を選択した動機を入学生に聞いたところ、「様々な背景をもつ同期生が数多くおり、切磋琢磨しながら支えあい助産師を目指すことができること」という回答が多く聞かれます。これまでの入学生の出身大学では、道内が約８５％、道外が約１５％となっており、助産師志望の学生を全国各地から受け入れてきた実績があります。さらに、本学看護学科の助産師志望学生は、合格すると本学助産学専攻科への進学を選択しており、学習の場を共有し身近で助産教育を見ている看護学生から選ばれてきた実績を有しています。

助産学専攻科の修業年限は、１年間です。近年、少子化の影響や看護系大学の増加により看護教育における母性看護学実習の経験が減少する傾向にあります。その結果、妊娠・出産する女性と関わる機会が十分に得られないまま助産師教育課程に入学し、分娩介助や授乳支援の実践が求められます。このような現状を踏まえ、本学では、看護学教育から助産学教育へと滑らかに移行できるよう、学内での講義、演習で基礎固めをした上で実習に向かえるようカリキュラムを構成しています。また、助産学実習は、札幌市内及び近郊を中心に道東・オホーツク圏、道南、胆振地方を含め約１８か所の医療機関で実施しています。広域にわたる北海道の母子保健と周産期医療の現状、および女性と家族の多様なニーズに触れながら助産師の役割を学ぶことができるのも本学の教育の特徴といえます。

修了生の就職率は１００％で、道内就職率は約８０％、助産学実習施設への就職率は約５０％で推移しており、全国平均を大きく上回っています。実習先に出向いた際、助産師として立派に働く修了生に出会う機会も多くなりました。教員は、その成長した姿に感動し、助産教育に携わるエネルギーを貰っています。本学の「北海道の母子保健・周産期医療の充実と発展に貢献する」という教育理念に基づき、安全に安心して子どもを産み育てる社会の実現を目指してその使命を果たしてほしいと願っています。

公衆衛生看護学専攻科　上田　泉　教授

中央　上田教授

札幌医科大学では、保健師国家試験受験資格を付与し、１年間で保健師を養成する専攻科課程を２０２０年４月に開設する予定です（保健師学校変更承認申請予定）。４年制大学の保健師養成の専攻科です。１５名定員で今年度の入試は１月に予定しています。詳細はHPの学生募集要項をご覧ください。

なお、専攻科説明会は本年８月２４日（土）に開催し、令和元年度実施分は終了致しました。

公衆衛生看護学専攻では、住民とともに地域の健康づくりに取り組む高い専門性と実践力を身につけた保健師の育成を目指しています。そのため教育課程には、複雑な健康課題を有する個人やグループへの支援、地区や組織との協働、施策化といった保健師に求められる能力の基盤となる知識や技術を幅広く学べる科目を準備しました。なかでも高い実践力を習得するため、多様な実習施設における長期間の臨地実習を配置しているのが特徴です。将来、保健師として学ぶことは多岐に渡りますが、実践的な学習と思考を深める時間をバランスよく配置し、スケジュールにもゆとりをもたせる工夫をしています。

現在は、看護学科に保健師選択コースを設置して、１０名定員で保健師を養成しています。これまで多くの保健師を養成してきた実績を踏まえて、より充実した教育内容にしていきたいと考えています。

北海道民の生活や環境に対する理解を深め、住民の声に耳を傾け、社会の多様な健康課題に対応できる保健師の育成に向けて、教員一同、尽力して参りたいと存じます。ぜひ、保健師を目指している方に、ここ札幌医科大学の専攻科への進学をお勧めいたします。

（http://web.sapmed.ac.jp/jp/news/topics/jmjbbn000000fg1w.html）保健医療学部ホームページにパンフレット、学生募集要項を掲載しておりますので、ぜひご覧いただければと存じます。

研究紹介

＊保健医療学部各学科において取り組んでいる研究についてご紹介します。

医療を受けた子どもが「がんばった」と実感できる看護とは？

幼少期の受診を思い出した時、いい思い出を想起される方はいらっしゃるでしょうか。ゼロではないでしょうがかなり少ないことが容易に想像されます。私は小児が受診した経験を「自分が大切にされている」「次の受診はもっと上手にできそう」などと考えてもらえる、つまり、その受診経験が「成長の糧」になるような看護を提供したいと考えています。

そこで、私は受診した幼児が「がんばった」と思えることが重要だと考え、採血・予防接種を受けた幼児が「がんばった」かどうかを幼児自らが評価するスケール（図参照）と幼児の言動から大人が評価するスケールを作成しました。現在作成したスケールを用いて、採血を受けた幼児が「がんばった」と実感できる看護を明らかにすることを目的に調査を行っています。実際の採血場面の観察を通じて、看護師が日々の臨床で幼児に行っている効果のある看護を見出し、その結果を臨床に還元したいと考えています。

（看護学科：講師　浅利　剛史）

神経の障害による体の不自由を客観的に捉えてリハビリテーションに活かす

私どもの神経・発達障害理学療法学領域では、現在二つのテーマに取り組んでいます。
まず出生時に多くの問題を抱えた新生児や早産低出生体重児を対象として、その運動の特徴を神経学的あるいは運動学的な手法で捉え、適切な運動指導に活かしております。この時期の運動の特徴を正確に捉えることにより、成長に伴い少しずつ明らかになる運動の偏りや運動時のバランスの悪さを運動指導によって修正していくことが可能となります。低出生体重児が微増する現在、重要なテーマと考えております。

次に成人脳疾患を対象とした転倒や不良姿勢を予防する姿勢と運動のコントロールに関する研究です。このテーマの中には成人脳性麻痺、脳卒中を対象とした健康管理的な内容も含んでいます。いずれのテーマも臨床で用いられるための評価や治療を含むリハビリテーションに活かすことを強く意識しております。

レベルの高い理学療法は、レベルの高い理学療法学に支えられています。この大原則とともに研究室メンバーが一丸となり、時代の潮流を敏感にとらえ、「将来あるこども達のために、患者さんご本人のために、ご家族のために、北海道のために」有意義な研究に取り組み、神経・発達理学療法学の発展を目標とし、日々邁進してまいります。

（理学療法学科：教授　小塚　直樹）

可動する座面が身体や手の動きに与える影響について

発達障害作業療法領域では、障がい児・者の学習や生活環境の支援に関する研究に取り組んでいます。発達期の障がいを抱える対象者は、姿勢や運動を適切にコントロールすることが難しい場合が多いため、一人一人に適合した文具や教材、姿勢保持具の開発が望まれています。

現在我々は、可動する座面が身体や手の動きにどのような影響を与えるのかを、動作解析や筋活動から明らかにする研究を進めています。前方と後方に可動する座面は、市販の椅子では座位姿勢を保ったり活動を行ったりすることが苦手な対象者に対して、身体の動きをサポートし、机上活動を行いやすくする効果があると考えています。これまでに、可動する座面の椅子は、手を前方へ伸ばす際、少ない筋活動で身体を前傾・回旋できる可能性が示されました。今後は様々な方向へ手を伸ばしたり、食事や書字といった具体的な動作時の効果について検証していく必要があります。

実験場面の様子

（作業療法学科：講師　中村裕二）

行事紹介

保健医療セミナー　令和元年７月１９日（金）

令和元年７月１９日（金）に本学教育研究棟にて令和年度保健医療セミナーを開催しました。本セミナーは保健医療学部２・３年生とその保護者の方を対象に、北海道における保健医療職の実際の活動を理解して専門職の具体的イメージをもち、保健医療職の役割を考える機会として平成２７年度より毎年行っています。５回目となる今回は『リハビリテーション医療における多職種連携』と題して，道内の病院においてリハビリテーション医療の現場で活躍されている、本学部卒業生を含む３名のパネリストの方々にご講演をいただきました。パネリストには、清水政孝　氏（札幌禎心会病院：脳卒中リハビリテーション看護認定看護師）、松田直樹　氏（旭川リハビリテーション病院：理学療法士）、井上麻美　氏（中村記念南病院：作業療法士）を迎え、講演とパネルディスカッションを行いました。

また、パネルディスカッションでは、学部生からも多くの質問があり、実際の医療現場における専門職としての立場や多職種連携のための課題と方法について、活発な意見交換がなされました。

参加した学部生からは「多職種連携の難しさと大切さを知ることができた」、「職種によるリハビリテーションテーションの考え方の違いがよくわかった」等の感想が寄せられました。本セミナーは学部生にとって、各々の専門職の役割や特徴を学び、多職種連携をしながら働くために必要なことを具体的に考える貴重な機会になりました。

保健医療学部地域貢献推進センターが開設されました【令和元年４月１日】

建学の精神である「地域医療への貢献」を推進するため、本学部の教育・研究の成果を道民の皆様へ還元し、地域における保健・医療の環境の充実と発展、および人々の健康水準の向上に寄与することを目的として、保健医療学部地域貢献推進センターが４月１日に開設されました。当センターの主な事業項目には、道民を対象とした生涯学習・健康増進の支援、専門職に対する人材育成の支援、卒業生のキャリア支援などがあります。

７月１２日（金）には地域住民の方々を対象に、保健医療学部公開講座を開催いたしました。テーマは『災害医療ってなんだろう？－もしものときに備えた生活！－』とし、看護学科上田泉　教授より『見つめなおそう、地域とのつながり』、理学療法学科　山田崇史　准教授より『もしもに備える！貯筋のすゝめ』、作業療法学科　森元隆文　講師より『災害のときにこそ大事にしたい「こころ」と「生活」』と題した講演が行われました。保健医療学部ホームページに講演の様子を掲載しておりますので、ぜひご覧いただければと存じます。

（http://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/index.html）

【令和元年度 後期学事予定】（1～4学年）

（4学年共通）

９月３０日	～	後期講義開始
１０月１７日	～１０月１９日	体育祭
１２月　６日		文化芸術祭
１２月２３日	～　１月　５日	冬季休業
３月１９日		卒業式

（1・2年生）

９月３０日	～１０月　４日	臨床実習（１年生理学）
１月２７日	～　１月３１日	臨地実習（１年生看護・作業）
２月３日	～　２月１４日	臨地実習（２年生看護）
２月１８日	～　３月　５日	後期定期試験

（３年生）

９月１７日	～　２月２８日	臨地実習（看護）
９月３０日	～１０月１１日	臨床実習（作業）
１月２７日	～　１月３１日	後期定期試験（理学）
２月　３日	～　２月２８日	臨床実習（理学）
２月１８日	～　３月　５日	後期定期試験（作業）

（４年生）

８月２６日	～１１月２２日	臨地実習（看護）

［お問い合わせ先］
札幌医科大学事務局学務課保健医療学部教務係
電話：011-611-2111（内線：21920）